

## 2020 佐紀路カメラ散歩---第三回 / 平城宮跡



水上池を少し南に行くと広大な平城宮跡が広がっています。和銅3年(710年)元明天皇によって都が、飛鳥の藤原京から奈良の平城京に移されました。その後、8代の天皇74年間、わが国の都として栄えました。平城京は、道を碁盤の目のように整然と並べられ、中央の北に宮殿平城宮が造られました。築地塀に囲まれた平城内には、天皇の住居の内裏、政治や儀式を行う大極殿や朝堂院、朝集殿などがあり、数千人の役人が働いていたといわれています。しかし、延暦3年(784年)に都が京都の長岡京に移り、続いて平安京に移ってから、平城京は急に衰退し、田園風景に変わってしまいました。

明治32年(1899年)から調査が開始され、翌年平城宮跡発見が公表されました。大正10年(1921年)には国の史跡に指定され、昭和34年(1959年)からは、奈良文化財研究所が本格的に調査をすすめ、日本ではじめての木簡が見つかるなど、新たな歴史が次々と発見されています。

平城宮跡は世界にもない地下遺構、歴史の宝庫であることが明らかになりました。

いまでは、朱雀門、東院庭園などが復元され、建物の柱跡にはツゲの木が植えられ、華やかな天平文化が花開いた平城京の宮殿の姿を想像できます。また、平成22年(2010年)の遷都1300年にあわせて第一次大極殿が復元され、朱雀門とともに、朱の色も鮮やかに平城宮跡の空に美しく輝いています。